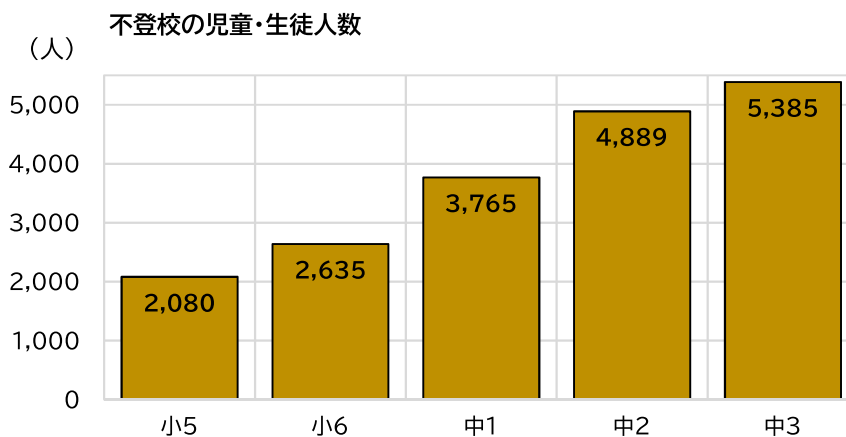


■ 子どもに寄り添う不登校への支援

不登校とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景によって、児童・生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にあること(病気又は経済的理由による場合を除く。)」とされています。どの子どもにも起こりうるものであり、問題行動ではありません。

いわゆる「中1ギャップ」について

不登校は特に小学6年生から中学1年生にかけて増加します。いつもと様子が違うと感じた時に、できるだけ早く先生やスクールカウンセラー等に相談し、中学校と家庭が連携して子どもを支援することが大切です。



(令和5年度 神奈川県児童・生徒の問題行動・不登校等調査)

こんな様子がみられたら・・・	
休み始めの時期に・・・ ● 朝起きられない ● 登校前の腹痛・頭痛 ● 断続的に中学校を休む	○十分に時間をかけて、子どもから話を聴くことが大切です。 ○子どもの話から得られたことや家での様子を、中学校に伝え、家庭と中学校が同じ方針で子どもと関わるようにすることが大切です。
休みが続く時期に・・・ ● 登校は難しいが、家庭訪問した先生と会える ● 休日には出かけられる	○自ら動き出せる力を信じて見守り、できたことや良い変化を見逃さず褒めるよう心がけましょう。子どもが先生と会うことも辛い様子の時には、保護者のみで面談するのもひとつです。無理強いせずに様子を見守りましょう。
休みが長く続く場合に・・・ ● 人目を避け外出できない ● 学校関係者に会えない ● 部屋に閉じこもる	○子どもの力を信じ、自分でできることは手を出さずに見守りましょう。家族だけで抱え込まず、中学校や県・市町村の相談機関、教育支援センター、不登校の子どもたちの支援に取り組むNPOなどの力を大いに活用しましょう。
登校に向けて・・・ ● 中学校のことを気にする ● 友だちとの連絡を始める	○安心して話せる雰囲気づくりを心がけ、頑張っていることを認めていきましょう。放課後の登校や、保健室など教室以外への登校等、中学校と相談して、子どもに寄り添った支援を継続していきましょう。